

たしと守警に交渉し小競合ひの後結局守警に承諾せしめ意氣揚々退出する等手もつけ難きものあり、温和なるは電機の一工場のみ。電気工場にては八日夜八時より吉田新田公會堂に代表委員參集協議の結果三菱内燃機と略同様の要求を提出するに決し九日職工總數千二百が略平日通り出勤し、怠業状態に入るや、會社は要求決定を知らぬかに、潜水艦課の職工六十九名を除ける職工中役付以上のものを召集し「過日來労働紛議の渦中に投せしめて努めて出勤しつゝあることに對して満足の意を表明すると同時に、工場に於て適當と思惟せる期間内、各自の實働に對する賃銀の五割を増として支給すべきを以て、今後尙倍々精勵、他の誘惑に陥るなきを勸告」したり。

内燃機に於ては約八百の職工、午前六時半までに工場前廣場に集合したるも場内に入らんとせず、時折喊聲を擧げて、同工場及電機工場の周圍を練り歩き、午前七時半に到るや突然「間瀬の家へ行け」と叫ぶものあり、忽ち多數の職工之に相和して、工場西側なる間瀬工作課長の社宅を眼蒐けて殺到し、ワツシヨ／＼と轟めきつゝ其社宅を包圍したるが兵庫署の警官百餘名駆けつけ慰撫したるため幸い事なきを得工場に引取り解散したり。

一方川崎本工場に於ては定刻午前七時半、多數は辨當を携帯することなく入所し工場又は構内空地、鐵材上に群據し熾に労働歌を高唱し同八時過「各工場に於て本日の行動要旨を知るべし」との貼札の掲示さるるや何れも一先づ各勤務工場に歸りて當日の行動豫定を見たる後電気工作部は午前九時

より同工場内に報告演説會を開き濱崎委員以下の演説あり。斯くて電気、造船を除く大部の職工は一先づ同九時半頃ゾロ／＼引續き退所し各部委員は仕上場に集合して當日午後二時本社重役との會見に關する協議及十日の大示威運動の打合せを行ひ同時に從來各部々に相違してゐたる腕章記章を一樣に制定し十日示威運動に用ふる旗其他の準備に忙殺されたるが、午後二時造船工作部の要求條件提出の爲重役と會見の時刻至るや各工場職工は「生死いづれとも戦へ」「必勝を期す」等の大小旗數十本を翻へし、手に手に「正義」「自重」と記せる三角形の手旗、「必勝」「死すとも戦ふ」など大書したるメカホンを用意して、會見委員の來るを待つ。定刻造船工作部委員（造機其他は準備の都合上延期）灘、中村、淺野、村瀬、田中、元岡の六名に會計寺岡を加へし一行が參謀の腕章を付けたる久留、野倉、須々木氏等に擁護されつゝ本社前に現るゝや居合はず職工一齊に歡呼の聲を揚げ労働歌を合唱し喊聲又喊聲、附近の見物團また重圍を作つて炎天下に砂塵濛々たり。斯くて委員は第三應接室に入り交渉を開始せるが其間職工團隊約八千労働歌を高唱しつゝ本社を不斷に示威を續け萬一の爲めに出張警備の任に當れる相生橋、水上其他の警官隊また百餘名表入口、裏口其他各所の要所々々を固め殆ど戰塵の巷に在るやの觀を呈せり。

會社側は永留、山本兩重役にして要求は既記九箇條外に更に野倉萬治氏復職の一項を加へたるものなり。永留重役は例に依り「この嘆願書を提出さるゝならば外遊中の松方社長が歸國さるゝ時期は僅